

CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.28

2020年4月

Center for
International Research on the
Japanese Economy (CIRJE)
Graduate School of Economics,
Faculty of Economics
The University of Tokyo

Asia Pacific Trade Seminars 2019

当センターでは、様々な研究会や国際コンファレンスが開催されております。今号ではその中から、2019年6月に開催された会議について、主催教員よりご報告申し上げます。

古澤泰治



Asia Pacific Trade Seminars (APTS) は、国際貿易を専門とする研究者のフォーラムであり、アジア・パシフィック地域の大学を回りながら年1度のコンファレンスを開催しています。今年は、6月29日-30日に、東京大学にて、第15回目となる APTS コンファレンスが開催されました。



Asia Pacific Trade Seminars 2019

投稿された論文から厳選された51本の研究発表に加え、Samuel Kortum氏 (Yale University) と Alan Woodland氏 (University of New South Wales) は、基調講演において、それぞれ "In search of trade friction" と "Issue linkage in international environmental agreements formation" を報告してくれました。

基調講演はもちろんですが、報告されたいずれの論文も質が高く、カバーされたトピックも、地域経済統合、オフショアリング、海外直接投資や国際課税問題など、多岐に渡りました。また、アジア・パシフィック地域が中心とはいえ北米やヨーロッパからの参加も得て、報告者の顔ぶれという意味でも多様性のあるコンファレンスとなりました。



約80名の参加者は、3つのパラレル・セッションの間を自由に行き来しながら、活発な議論を繰り広げ、自らの発表や他の参加者の発表から最新の貿易理論や実証研究を学び、休憩時間やレセプションの時間を利用して参加者同士の交流を満喫しました。CIRJEによる資金面や人的サポートのおかげで、この非常に有意義な2日間の日程を無事終えることができました。

APTSは、開催校の協力を得ながらアジア・パシフィック地域の国際貿易研究を振興すべくコンファレンスを続けてきました。これからも引き続きその役割を果たしていきます。国際貿易の分野に興味のある方は、是非 APTS ホームページ (<http://www.furusawa.e.u-tokyo.ac.jp/APTS/>) を訪れてください。



CIRJE Newsletter

目次

研究会開催報告
Asia Pacific Trade
Seminars 2019

客員教授・准教授
紹介

ワークショップ
活動報告
Tokyo Workshop on
International and
Development Economics
(TWID)

CIRJE
ディスカッション
ペーパーシリーズ

客員スタッフ

スタッフ

客員教授・准教授紹介

当センターには、研究者を受け入れるための複数のポジションがあります。「短期客員研究者」へは、公益財団法人野村財団からのご寄付により、多彩な研究者の皆様をお招きしています。また「客員准教授」として、国内各地から研究者の皆様にご来訪頂いております。今回は、2019年度にお越し頂いた客員教授・准教授の皆様に、滞在時の活動内容をお聞きました。

客員教授

Department of Economics, University of Southern California
Robert Dekle
(2019.5.13 - 6.12)



CIRJE では、主に日本の労働需要に対するロボットの影響に関する研究を行いました。米国での研究では、ロボットは労働需要にマイナスの影響を与えるとして、導入に対しては懐疑的な見解が一般的ですが、1979年から現在までの日本のデータで検証したところ、ロボットの導入により産業の生産性が急増し、労働需要が増加していることが分かりました。ロボットは特定のタスクにおいては雇用に取って替わる可能性があります。業界の生産性が上がることにより、例えば工場の組立ラインからカフェテリアや駐車場等への労働者の配置換えも可能となります。

この研究は、福田慎一教授の招聘があって初めて実現しました。東京大学経済学部の経済学者の方々との交流も非常に貴重な機会となり、また、CIRJEのスタッフの方々にも滞在のサポートをいただきました。とても有意義な滞在となりましたことを深く感謝致します。

School of Humanities (History), University of Bristol
Christine MacLeod
(2019.10.1 - 11.30)



2019年10月-11月に、受け入れ教員である山本浩司氏のお招きで CIRJE に滞在し、山本氏の進める資本主義の比較史に関する大規模な国際研究プロジェクトの準備に携わりました。

このプロジェクトの新規性は3点あります。1点目は、調査の起点をヨーロッパ(通常はイギリス)ではなく日本の江戸(Edo Japan)とし、徐々に西方へと移動していったことです。2点目は、国家の役割とより広範囲の関係者との関わりを優先し、これまで見過ごされていた一次資料を扱う研究や地域のケーススタディを活用したことです。このような視点の変化は、政治・経済機関やそれらの活動に特化した比較研究を補完したり、それらを議論の対象とする可能性をもたらすでしょう。3点目は、これらを大学院の科目(module)として共同で指導し、新たな研究の道を拓いたことです。学生にとっては世界経済史についての理解を再考するきっかけとなりました。多くの議論が重ねられてきたイギリスの産業革命の要因について取り組んだ際には、最新の史料文献となるセミナー論文を発表しました。

「歴史家ワークショップ」主催の多岐にわたる研究セミナーやワークショップにも参加しました。これらは、若手研究者が英語で発表することを奨励する優れた取り組みで、学生の英語でのプレゼンテーション能力を伸ばす支援をすることで、彼らの国際学会に参加する自信を積極的に高めています。

CIRJE、経済学研究科の関係者の方々によりこのような素晴らしい機会を頂きましたこと、また、教員、スタッフ、学生、皆様のおかげで有意義な滞在となりましたことを心から感謝致します。

Motu Economic and Public Policy Research, New Zealand
Dean Robert Hyslop
(2019.11.11 - 2020.2.11)



2019年11月から2020年2月までの CIRJE での滞在では、セミナーへの参加、発表、教員・学生の皆様との交流等、素晴らしい機会を頂きました。CIRJE スタッフの方々のサポートにも心より感謝申し上げます。

滞在中は、川口大司教授とともに IT 労働者向けの労働者派遣事業者(派遣事業者)の賃金設定行動の分析についての研究プロジェクトをスタートしました。企業の賃金設定に関する多くの研究とは対照的に、取引先企業の派遣事業者への支払いと派遣事業者が労働者に支払う賃金との差について直接測定できるデータを利用することで労働者の買い手独占の分析に用います。

また、2本の論文の改訂も行いました。「人口の変化、移民、住宅市場」(Dr. David Maré および Dr. Trinh Le (Motu)、Professor Steven Stillman (Free University of Bozen-Bolzano) との共著)では、1986年から2013年の期間、ニュージーランドの地方の住宅事情:人口規模と移住状況との関連性についての分析を行いました。その結果、人口に対する住宅価格の弾力性は0.65でしたが、賃貸料への影響は見

られず、移民の流入は人口変動の重要な要素の一つではあるものの、住宅価格の変動と新規移民の占める割合との間に関連性は認められませんでした。「女性の所得格差:「就業の選択 (extensive margin)」と「労働時間の選 (intensive margin)」における家族特性の役割の変化」(Professor David Card (University of California, Berkley) との共著) では、1960 年代後半と 1990 年代後半との米国における女性の年間所得格差についての分析を行いました。その結果、男性の所得格差が上昇の一途をたどっていることとは対照的に、女性の所得格差は急激に減少していることが分かりました。所得の extensive margin (雇用) と intensive margin (時間および賃金) とのジョイントモデルによると、上記期間内に女性の収入格差は 80% 以上減少していると推定されました。これは、家族状況の要因 (子供、配偶者の有無・収入等) と女性の就労の意思決定の間の関連性が弱まってきていることによるものと考えられます。

客員准教授

武蔵野大学経済学部
田中茉莉子
(2019.4.1 - 2020.3.31)



2019 年 4 月 1 日より 1 年間滞在させて頂きました。滞在中、受入教員の福田慎一先生との共同研究、具体的には、①アジア新興国から国際金融市場への金融面での波及効果に関する実証研究と②国際通貨の選択に関する理論研究に取り組みました。

①の研究では、主成分分析を用いてアジア共通の金融ショックを捉え、GVAR モデルを推計することで、アジア新興国から欧米の金融市場への波及効果について検証しました。分析の結果、株式市場での波及効果が主として製造業のショックによるものの GFC (Global Financial Crisis) 以降格段に大きくなっていること、債券市場での長期金利の波及効果が株式市場より小さいもののテーバリング期に拡大していることから、アジアのインパクトが高まっていることが判明しました。この成果は Asian Development Review に採択されました。また、②の研究では、経済地理を組み込んだ貨幣のサーチモデルを構築することで、時差が国際通貨の選択に影響を与え、結果として、米ドルが国際取引において支配的な交換手段としての役割を果たしていることが判明しました。

CIRJE 滞中は、学術支援専門職員として勤務して以来であり、CIRJE スタッフの方々のサポートのお陰をもちまして研究に専念できました。このような機会を頂きご指導頂きました福田先生、下津克己センター長をはじめとする先生方に心より感謝申し上げます。

ワークショップ活動報告

当センターには、経済学研究科教員により運営される 14 のワークショップが登録されています。今回はその中から「Tokyo Workshop on International and Development Economics (TWID)」の活動を、代表者の教員よりご報告申し上げます。

Tokyo Workshop on International and Development Economics (TWID)

高崎善人



TWID は、参加者が研究内容について議論を深めることで研究能力を向上させ、日本の国際経済・開発研究全体のレベルアップに貢献することを目指しています。東京大学大学院経済学研究科、大学院新領域創成科学研究科、公共政策大学院などにおいて、主に開発途上国における経済発展・社会発展、また国際経済との関わりについて研究している教員 (5 名) が幹事となっています。通常のセミナーと複数の報告者からなるワークショップ形式 (一報告あたり 90 分) があり、月 1 ~ 2 回のペースで柔軟に開催しています。国内外の研究者が報告を行い、参加者は本学内および国内外の研究者・大学院生で、20 名程度です。国際・開発経済学が主な専門ではない参加者もよく見られます。毎回活発な議論が行われ、研究ネットワーク構築の場になっています。

国際・開発経済学における最先端の研究が報告されます。エビデンスに基づく政策評価ならびに因果推論を重視し、無作為化比較試験 (RCT)、疑似実験デザインによる実証分析、ビッグデータ分析、構造推定、行動実験等、様々な研究アプローチが対象です。健康行動に関するフィールド実験から開発援助のマクロ分析まで、数え上げるときりが無い非常に幅広いトピックを扱います。アフリカの特定の農村からグローバルスケールまで、研究対象地域も様々です。一方で、貧困、貿易、移民、紛争、気候変動等、人類にとっての喫緊の課題に対して、学術・実務双方における貢献を目指しているという大きな点で、一貫していると言えます。

CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2019年4月から2020年3月の期間で、Jシリーズ1件、Fシリーズ30件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を様々な分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストは2019年度に訪された客員スタッフの一部です（所属は在籍当時）。

客員教授

- Robert Dekle (2019.5.13 - 6.12)
Department of Economics, University of Southern California, USA
- Christine MacLeod (2019.10.1 - 11.30)
School of Humanities (History), University of Bristol, UK
- Dean Robert Hyslop (2019.11.11 - 2020.2.11)
Motu Economic and Public Policy Research, New Zealand
- 渡辺 誠 (2019.5.8 - 5.31) * 野村財団・客員研究員 *
School of Business and Economics, VU University Amsterdam, Netherland
- Nathaniel A. Throckmorton (2019.6.1 - 6.7) * 野村財団・奨学研究員 *
Department of Economics, William and Mary, USA
- Samuel Kortum (2019.6.25 - 6.30)
Department of Economics, Yale University, USA

客員准教授

- 田中茉莉子 (2019.4.1 - 2020.3.31)
武蔵野大学経済学部, 日本
- Giacomo Todeschini (2019.16 - 9.22) * 野村財団・奨学研究員 *
University of Trieste, Italy
- Xavier Ragot (2019.12.10 - 12.13)
Department of Economics, Sciencespo, France
- Christopher Glynn (2020.1.8 - 1.18) * 野村財団・奨学研究員 *
Department of Decision Sciences, University of New Hampshire, USA
- Francesco Zanetti (2020.1.13 - 1.17) * 野村財団・奨学研究員 *
Department of Economics, University of Oxford, UK

短期客員研究者

- Mike K. P. So (2019.4.3 - 4.28)
The Hong Kong University of Science & Technology, Hong Kong
- Galina Zudenkova (2019.4.15 - 4.26) * 野村財団・奨学研究員 *
Department of Economics, University of Mannheim, Germany

スタッフ

教授



顧問

- 翁 邦雄 (大妻女子大学社会情報学部特任教授)
- 加藤淳子 (東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授)
- 清滝信宏 (プリンストン大学経済学部教授)
- 高田 創 (岡三証券株式会社
グローバル・リサーチ・センター 理事長
エグゼクティブエコノミスト)
- 西村和雄 (神戸大学経済経営研究所特命教授)

運営委員会

運営委員長

下津克己 (センター長)

運営委員

青木浩介・粕谷 誠・澤田康幸・谷本雅之・福田慎一

CIRJE Newsletter No.28

2020年4月

東京大学大学院経済学研究科附属
日本経済国際共同研究センター
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294
<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>